



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



マースレニツァ祭り in リーブラ

安部 花子

3月3日、田町リーブラでのマースレニツァに参加しました安部と申します。昨年は諸事情により涙を飲んで開催を見送ったマースレニツァ、今年は日本の雛祭りとも重なり、寒い冬を吹き飛ばすような盛大なマースレニツァを開催することができました。

マースレニツァといえば、ロシア人が冬の間に渴望してやまない春の訪れを祝い、厳しい冬を送り出す儀式です。今回のマースレニツァでは、ホールにて歌や踊りを楽しんだあと、調理室へ移動しブリヌイを食べ春の到来を祝う、というプログラムを千葉副会長が企画してくださいました。今回そのブリヌイ調理のお手伝いをさせていただき運びとなり、大張り切りで午前中から調理室で岩橋理事と一緒にブリヌイクッキング！（私が作った分はあまり上手に焼き上げることができなかったのですが、他のメンバーが焼いてくださったキレイなブリヌイと併せて、参加者の皆様が寛大な心で楽しく召し上がって下さり大変感謝でした…。）

ブリヌイの支度をバトンタッチイベントの本会場であるホールへ移動すると、開始までの待ち時間の間、美しいロシア国内のさまざまな地域の冬景色がプロジェクターに映し出され、幻想的な雰囲気です。

いざ、舞台の幕開け。男の子が舞台上に登場し、ヤクーツクの「口琴」という楽器の演奏が始まりました。ビヨ〜ン、ビヨ〜ンという独特の音色で、シャーマニズムの雰囲気を感じさせる演奏は一見簡単そうに見えるものの、安定した音を出すのが非常に難しい楽器です。以前北海道を旅行した際、お土産コーナーでアイヌ民族の口琴のレクチャーを受けたことがあるのですが、自分の口腔を適した形にすることができず、何回やっても上手に鳴らなかったことを思い出しました。その子が上手に鳴らすのを見て、いっぱい練習したのだろうな、と勝手に感慨に耽ってしまいました。続いて、役者魂に溢れる少年たちが寸劇を熱演し、ロシアのサラファンという赤い民族衣装をきたウズベキスタンの高校生の方が歌を披露します。この方は後で美しい若草色のドレスに衣装

替えもして、一人二役をこなしていられませんでした。言葉の意味は分からなくても、目にも美しいでたちで舞い踊り、観客の目を楽しませてくれます。

そのあとも、純白のドレスとココシニク（頭飾り）をまとった冬の妖精やブルーのドレスとココシニクをまとった春の妖精が舞い踊り、さらには冬の妖精の方が衣装を変えて、全く雰囲気の異なるジプシーの情熱的な舞踊も披露してくださいました。途中で観客も舞台前に降りてくるように促され、皆で手をつなぎ大きな輪を作って、ぐるぐる踊ったり簡単なミニゲームを楽しんだり、大いに歌い、騒ぎ…ああ、冬送りの儀式はこうでなくては、と思わずにはいられない、素晴らしいイベントとなりました。

どの演目も個性豊かで、ロシアという国がいかにも多様に富んだ国であるかを思い知らされます。私のようなロシア語が分からない観客にとっても楽しめるように企画されていて、同じ空間にいただけで、まるでロシアを旅しているような雰囲気を味わうことができました。一生懸命稽古に励み演目を熱演された出演者の皆様、本当にお疲れ様でした。少し気が早いですが、来年のマースレニツァも今から楽しみです。

3月3日、港区立男女平等参画センターリーブラで行われたロシアの伝統的な春を祝う祭りマースレニツァに顔を出し、ロシア人の子ども連れ家族が多く参加する中、民族楽器演奏、歌、踊り、ゲームなどで楽しいひと時を過ごして来ました。中でもビックリしたのは、子供・大人が輪になって右手・左手、右足・左足、右耳・左耳、全身を動かして歌いながら踊る「ブー・ブー」と言うPLAY PARTY DANCEでした。アメリカにも似たような「HOKEY POKEY」と言うDANCEがあり、若いころ屋内や屋外でのPARTYやレクリエーションなどで良く踊ったとても楽しいDANCEに似ていてちょっと驚きました。早速、ロシア語の歌詞で覚えたいと副会長の千葉さんにナタリア先生を紹介して頂いて特訓を受けました。皆さんにもお勧めのDANCEですよ。

(85歳の会員 山田雄康)

*ご協力頂いた小嶋大師志様、鈴木省男様、中村靖様、グロバスのナタリアさんたちも本当にありがとうございました。